

科目名	海外観光インターンシップⅡ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			国際観光学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Overseas Tourism Internship Ⅱ	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	よこた けいざぶろう	実務家教員担当科目	○	修得単位	2 単位
担当者名	横田 恵三郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	国内・海外観光インターンシップⅠや海外語学研修などの履修体験を踏まえながら、自己の職業適性をより明確に把握するとともに基礎的な国際感覚を養い、魅力あるバランスの取れた人間性を涵養し、活躍する社会人としての基盤を備えることができる。				
到達目標	基礎的な国際感覚を身に付け、将来、社会人として外国（人）との間で臆することなく関係を持てる人間力を養うこと。また、少なくとも自身の今後のキャリアとして観光関連企業を目指すか、非観光関連かを納得して判断できるようになる。				
授業概要	当該授業は事前指導・海外での実習・事後指導・報告会・試験で構成されている。接客現場での就労体験を行なうことになるため、国内・海外観光インターンシップⅠや海外語学研修の履修体験を振り返りながら、身だしなみ、表情、挨拶、言葉遣い等のビジネス・マナーを復習し、一層高いレベルを追求する。今回渡航する国の諸情報を収集し、以前の国内・海外体験を参考にしつつ、安全かつ有意義な海外滞在にするにはどうすればいいか自ら考えてみる。実習中は毎日を振り返り、必ず日報として記録に残した上で、事後授業の振り返りの材料とする。				
授業計画					
第1回	事前指導①	・ガイダンス ・海外インターンシップⅠの振り返り、見つかった課題 ・今回の挑戦 ・自分への十の約束	第5回	事後指導① ・海外インターンシップの振り返り 1	
第2回	事前指導②	・整容 ・ビジネス・マナー1 ・英語の Resume やメールの作成	第6回	事後指導② ・海外インターンシップの振り返り 2	
第3回	事前指導③	・渡航国を知る（文化、習慣） ・必要な渡航準備の確認 ・ビジネス・マナー2	第7回	合同報告会①（海外観光インターンシップⅠ＆Ⅱ） （国内観光インターンシップⅠ＆Ⅱ）	
第4回	事前指導④	・滞在中の留意事項 ・緊急時にとるべきこと	第8回	合同報告会②（海外観光インターンシップⅠ＆Ⅱ） （国内観光インターンシップⅠ＆Ⅱ）	
	インターンシップ（40時間以上）		第9回	定期試験	
授業時間外の学習	日頃から身だしなみに留意するとともに世界のニュースや動きに関心を持ち毎日チェックすること（1.5時間程度）。				
履修条件 受講のルール	接客現場でのインターンシップになるので整容を保てることが最低条件となる。また外国語については、英語力は準2級以上を保持していることが望ましい。もしくは中国語等の外国語の授業をこれまで履修したか、現に履修していること。受け入れ先との関係から、接客に興味がないまたは適性がないと判断した場合は履修を認めない場合がある。また、事前指導の授業に全て出席した者だけが実習に参加することができる。				
テキスト	特に定めない。				
参考文献・資料	プリントとしてその都度授業の中で配付する。				
成績評価の方法	試験 30%、報告書・報告会での報告 40%、実習受け入れ先企業の評価 30% 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。				
オフィスアワー	水曜日：2限(10：40-12：10) 木曜日：2～3限(10：30-14：00)				
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)				
実務経験及び実務を活かした授業内容	航空会社の駐在員として3回海外に滞在していたが、具体的に経験した異文化の内容を説明したい。				

学生への メッセージ	新型コロナウイルス感染症の状況によって実習の可否を判断します。これまでの国内観光インターンシップ、海外観光インターンシップ、海外語学研修等で得た経験を振り返り、実習の中でしっかりと自己分析をし、将来の方向を自信をもって定められることを期待しています。
---------------	---